

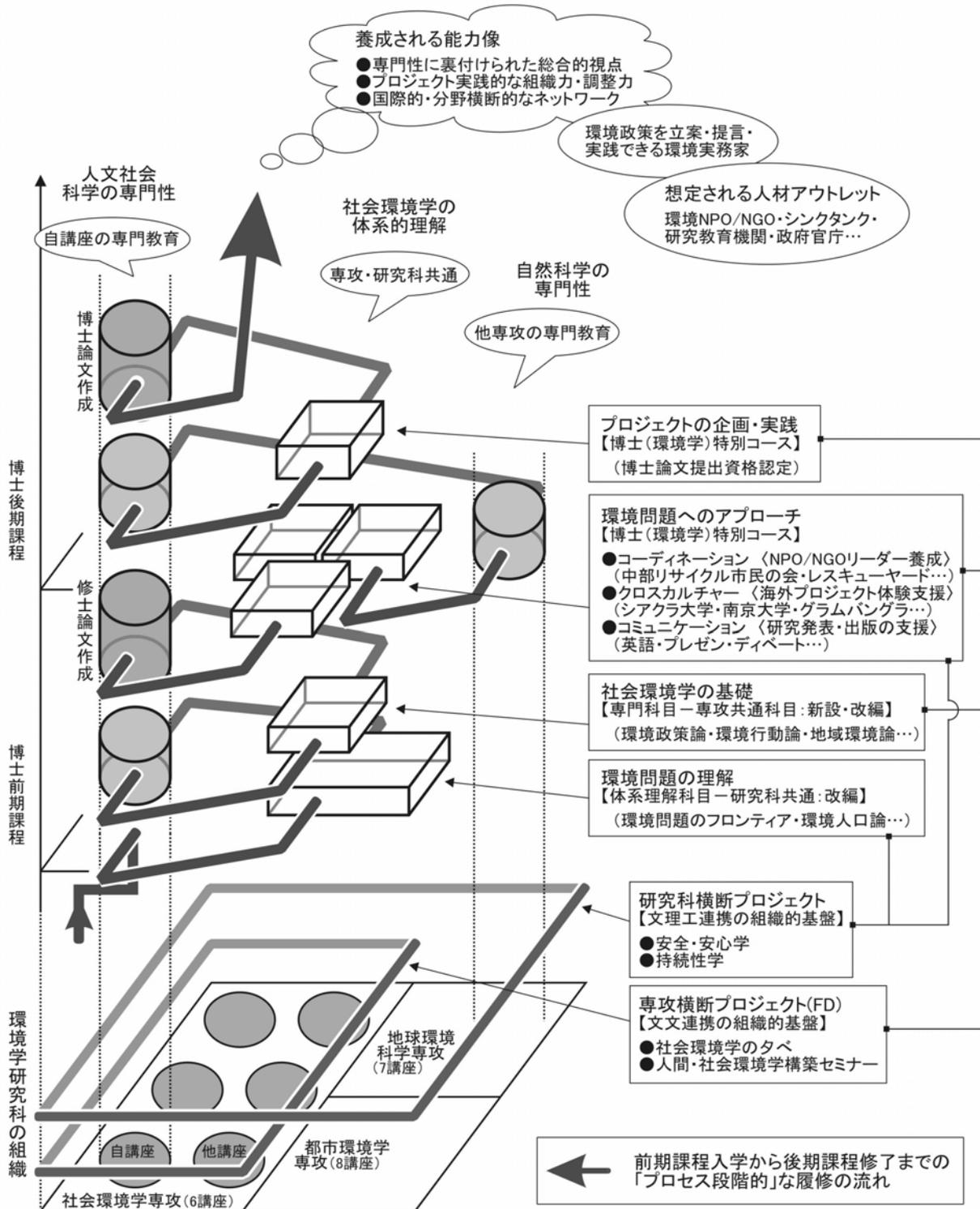
平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	名古屋大学	整理番号	d006
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	社会環境学教育カリキュラムの構築 (専門性に裏付けられた環境実務家養成プログラム)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 環境学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (環境活動、環境と社会、合意形成)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課題区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 環境学研究科社会環境学専攻[博士前期課程] 環境学研究科社会環境学専攻[博士後期課程]		研究科長(取組代表者)の氏名 林 良嗣
	(その他関連する研究科・専攻名)		
<p>5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)</p> <p>5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)</p> <p>名古屋大学は、研究と教育の創造的な活動を通じて「世界屈指の知」を創出し、「論理的思考力と想像力に富んだ勇氣ある知識人」を育てることを使命としている(名古屋大学学術憲章)。たゆまぬ努力を積み重ねて、豊かな文化の普及と科学技術の発展に貢献し、既存の権威にとらわれない自由・闊達で批判的な精神に富む学風を築いてきた。</p> <p>この学風の上に、本学は、従来の専門に基づく領域型8研究科の拡充(大学院重点化)を行った。また、国際化や環境問題など時代のニーズに即応する学際的な研究を目指し、文理融合型を中心とする5研究科(独立大学院)を新設した。「中期計画」に、「領域型分野及び文理融合型分野の専門教育の充実」を掲げ、大学院教育の実質化に努めている。</p> <p>本学は現在、大学院生の14%(平成17年度)が留学生であり、国際的な通用性をもつ高い質の大学院教育を目指している。本事業の推進については、ノーベル賞の受賞者3名を含む国際ショナルアドバイザーボード(国際諮問委員会)で厳正な評価を受けつつ、大学として強力に支援することを期している。</p>			

機 関 名	名古屋大学	整理番号	d006
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)</p> <p>社会環境学専攻は、21世紀学としての環境学の確立をめざした文理融合型の新研究科、環境学研究科の一専攻として平成13年に発足した。本専攻は経済学・政治学・法学・社会学・心理学・地理学といった人文社会科学系の専門分野の教育内容・手法を発展的に継承するとともに、個別領域を超越し、複眼的思考能力によって環境問題を解明・解決していく学生を育成することを主眼としている。このため、領域横断型の「体系理解科目」を水平部分に、各専門領域の「専門分野科目」を垂直部分にそれぞれ配置した「T型」のカリキュラムを採用している。</p> <p>また領域横断的な研究プロジェクトとして、「自然－物－社会」の調和のとれた持続可能な社会システムの構築を目的とした「持続性学」と、自然災害等に対する総合的な安全対策をデザインし、地域住民が安心して暮らせる社会構築をめざす「安全・安心学」を推進し、とくに後期課程の大学院生の教育に大きな成果をあげてきた。</p> <p>これまで、個別分野での専門教育と環境学修士の養成に関しては一定の成果をあげつつあるものの、より高度な環境学の専門家養成については不十分な状況にある。博士(環境学)を継続的に輩出する仕組みを整え、それに対する潜在的な社会的ニーズを掘り起こし、入学定員を確保することが今後の課題である。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)</p> <p>本取組は、上記の課題に応えるために、博士(環境学)授与プロセスを体系化し、「社会環境学」を主導できる専門家(=環境実務家)を養成することを目的とする。そのために、T字型の水平部分と垂直部分との連関を前期課程入学から後期課程修了までの時間的経過に沿って再配置することによって、プロセス段階的カリキュラムへの発展を構想する。また、各段階における役割分担を、講座・専攻・研究科をめぐる組織的基盤に照らして明確化するとともに、これまで個別に行われてきたオン・フィールド型実践を教育カリキュラムに組み入れる。</p> <p>具体的に前期課程では、①「体系理解科目」を研究科3専攻(地球環境科学・都市環境学・社会環境学)共通科目と、社会環境学専攻共通科目の「社会環境学の基礎」とに再編し、それらを各々の組織全体で支えるとともに、②主として講座によって担われる「専門分野科目」と段階的・有機的に結合することで環境問題の基礎的・総合的理解を図る。後期課程に関しては、博士(環境学)取得のための特別コースを設け、③必須科目のNPO/NGOリーダー養成、海外プロジェクト体験支援、研究発表・出版支援と、人文社会科学の専門科目との段階的履修によって社会環境学の体系的理解を図るとともに、他専攻専門科目の支援を受けながらそれを補完する。④最終的に、学生企画によるプロジェクトを専攻全体で審査することで、博士論文提出資格を認定する。</p> <p>これらのコースを修得することによって、環境問題の理解を総合的に理解し、その解決に人文社会科学の専門的立場から寄与できる知識や見識、プロジェクト実践的な組織管理能力や調整能力、国際的かつ分野横断的な広い人的ネットワークを持った人材の育成が期待される。</p>			

6. 履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



機 関 名

名古屋大学

整理番号

d006

< 審査結果の概要及び採択理由 >

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

- ・環境実務家の養成という目的やその社会的必要性が明確であり、教育課程や大学院生支援も体系的に用意されている。教員組織も整備されており、教育におけるその責務も明確で、FD(教育内容・方法等の組織的な研究・研修)への取組も評価できる。
- ・人文社会科学系に基礎を置きつつ、自然科学の理解を進める文理融合型は、現実的で合理的と言え、既成の学問領域を尊重し、実務家養成に挑戦する姿勢は高く評価できる。